



中世の繁栄を物語る広い道路（小路）が今も姿をとどめています

中世山陽道随一のにぎわい備前福岡 九州福岡の名称はここから 岡山市表町商店街は福岡商人から

大倉 豊さん
（85歳・長船町福岡）

備前福岡史跡保存会
会長、福祉のむらづくり
顧問を務めるなど、
地域活動に積極的に取
り組んでいる。



日本のエーゲ海と呼ばれる牛窓は 古くから風待ち潮待ちの港として栄え 朝鮮通信使の寄港地としても有名



歴史を感じながら歩いてみたい、しおまち唐琴通り



吉田洋一さん
（62歳・牛窓町牛窓）

高校まで牛窓で過ごし、
京都、東京でサラリーマン
生活。平成5年に牛窓
へ戻り、13年に町が募集し
た観光ボランティアに応
募。町の歴史を学び、これ
までに案内した観光客は
1,000人を超える。

瀬戸内市は誇れるところ 自分のまちの良さ見直そう

牛窓は万葉の時代から内海屈指の港町として栄えてきました。

瀬戸内市は誇れるところ。神功皇后にまつわる伝説をはじめ、各所に名所・旧跡や古社・古寺など重要な文化財が数多く現存するまちであり、近年は「日本のエーゲ海」とも呼ばれ、抜群の風景は観光地として有名です。

市内の皆さんにも、歴史の深さと景色の良さをぜひ体感してもらいたいですね。小・中学生の皆さんにも地域のことを知ってもらいたいと思います。

わたしたち観光ボランティアは、海遊文化館という素晴らしい拠点施設から案内を始めています。

皆さん、自分のまちの良さを見直しましょう！

「日本のエーゲ海」と呼ばれる牛窓。昭和57年、ギリシャのミティリニ市と姉妹縁組をし、そのとき訪れたギリシヤ人が、青い海、緑の島、オリーブなどを見てエーゲ海の風景と似ていると感激したことから、そう呼ばれるようになった。建物も、牛窓中学校や市牛窓支所はギリシヤ風。白亜のペンションも建ち並び、海には白いヨットが浮かび、何とも風光明媚です。

牛窓町観光ボランティアリーダーの吉田洋一さんは、「いい天気が一番のごちそう」と話します。牛窓一眺めが良いというオリーブ園からは、点在する島々が見渡せます。牛窓は風光明媚だけでなく、万葉集にもうたわれた歴史深いまち。古くから風待ち・潮待ちの港

として栄え、当時の歴史的文化遺産も数多く残されています。最も栄えたのは江戸時代。参勤交代や海路瀬戸内海を往来する幕使、西国大名の多くが、牛窓に寄泊していました。朝鮮通信使も寄港し、「備前牛窓帆船の柱、町に黄金の花が咲く」とうたわれたそうです。また、岡山城下と牛窓を結ぶ官道『牛窓往来』が設けられ、「しおまち唐琴通り」には往時をしのぶ面影が今も残されています。

昨年1年間に牛窓を訪れた人は約43万人。そんな皆さんを案内してくれるのが、牛窓町観光ボランティアガイドの皆さんです。土・日曜日、観光協会にボランティアガイドの依頼があると、気持ち良く応じてくれます。

郷土を知ること 郷土を愛すること

福岡はかつて随分栄えたところ。備前福岡史跡保存会は、先人の残された功績を皆さんに知らせていくことが大切だと考え、土・日曜日、会員が交代で備前福岡の歴史資料などが展示された「備前福岡郷土館」での説明や地元案内をしています。

このたび、地元の皆さんにも由緒ある地域の歴史を正しく認識してもらおうと、福岡の歴史手引き書「備前福岡歴史物語」を作成し、福岡地区へ配布しました。郷土を知ること、郷土を愛することにつながります。

福岡では、地域の皆さんが1つ屋根の下で支え合っていること、「七小路会館」を拠点に、むらづくりにも力を入れています。

1人ひとりが、できることで地域の役に立てたら良いのではないのでしょうか。

「福岡とは山陽道の沿道にあたり、この時代、中国筋における第一等の都会であったろう。村のそばに吉井川が流れていて水運がいろいろでなく、まわりに美田が広がり、気候は温暖で物成りがよく、餓えということ知らぬ土地という。」司馬遼太郎の『播磨灘物語』に、室町時代末の長船町福岡の様子が紹介されています。

当時、福岡は山陽道と吉井川が交わり、物資の集散地として大変にぎわっていました。またこの地は、鎌倉中期の繁栄の様子が『一遍聖絵』という絵巻物に「福岡の市」が描かれ、中学校の教科書にも掲載されています。

現在は、福岡の市の跡を示す石碑や、江戸時代初期に各小路に掘られ、飲用水と防火用水を兼ねて

使用されたと思われる「七つ井戸」、中世の繁栄の跡を残す町並みが残っています。

また、豊臣秀吉天下統一を成し遂げたときの参謀黒田官兵衛の曾祖父・高政の墓と伝えられる墓が妙興寺に残っています。九州の福岡は、官兵衛の子長政が慶長5年に筑前52万石の大名として博多の西に築城した時、その城下を父祖から聞かされていた備前福岡にちなみ「福岡」と名付けたといわれています。宇喜多直家は幼少のころ父興家とともに福岡の豪商の保護を受けこの地で過ごしました。成長して岡山城を築き、福岡商人を呼び寄せつづけたのが岡山市表町商店街のはじまりです。興家はこの地で病死し、その供養塔と伝えられるものが妙興寺境内に残っています。